

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第310号  
平成25年3月22日

練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木隆志

### 光っ子たちのよさを「紡ぐ」こと

校長 鈴木隆志

年度末を迎えました。保護者・地域の皆様方には、一年間を通してたいへんお世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

今年度を振り返ると、いじめの問題、体罰・暴力の問題、不審者の問題等、子供たちの大切な命を脅かす問題が続けて起きた一年間でした。その中で、光八小は光っ子たちが穏やかに毎日を過ごし、それぞれがたくさん活躍の場を得て、前向きな気持ちをもち続けることができた一年間であったと思います。例えばあいさつです。ただ、「あいさつをしなさい。」と指導するだけでなく、模範的なあいさつができた子を全校朝会で紹介しました。その子は、①立ち止まって、②顔を見て、③お辞儀をして、④笑顔であいさつができた子でした。次の日からは、①から④までができる光っ子たちが、たくさん増えました。また、例えばボールの片付けです。しまい忘れたボールが校庭に転がっていると、自分が使ったものでなくても、人に言われなくても、自分から片付けてくれる光っ子たちが大勢います。ですから、忘れられたボールが校庭に転がっていることがほとんどありません。それから、例えば表彰です。光っ子たちは学校の内外でそれぞれにいろいろな活躍をしています。それが認められ、褒められたり表彰されたりすることがありますが、羨ましがったりやっかんだりすることなく、素直に「すごいね。」と一緒に喜んでくれることです。そこには、頑張ることの連鎖が生まれます。

こうした光っ子たちのよさは、学校だけではぐくまれているものではありません。御家庭や地域の中で、光っ子たちのよさを紡いでいるからこそ、身に付いたものなのです。

光が丘第八小学校の平成24年度は、本日修了式を迎え、あとは卒業式を残すのみとなりました。今年度は、41名の6年生が巣立ちます。光八小では、学校・家庭・地域のみんなの力で光っ子たちみんなを、大切に育ててきました。それでも、もしかするといじわるをされているのかもしれない、友達となかなか一緒に遊べない、自分から勉強してほしい、もっと高い目標をもってほしいなどと、心配や不安、願いや課題は絶えないものです。学校でも御家庭でも、今年度のそれぞれの振り返りを次年度にきちんとつなげて、光っ子たちのよさを「紡ぐ」教育をさらに進めていきたいと考えます。今後とも御支援・御協力のほど、よろしく願いいたします。